

# 春の遍路三年目の結願

結願である。利根運河お大師遍路の八十八ヶ所をお参りしました。さあ、私の願いを叶えてください。八十八の札所を五地区に分けて春のお大師様の日に歩く。初参加したのが平成十一年の秋、いきなり雨天中止。翌十二年の春遍路からスタート、そして今年十四年四月の春遍路で札所を無事ひとまわりした。最終は⑤江戸川コース。雨の中、流山の浄観寺を出発、西深井の札所から浮き橋を渡り大師堂へ。ここには十七のお大師様が集められている。効率のよいお参りである。雨降りやまず、田植え間近の、広大な深井新田に行く。江戸川に流れ込む運河の終点に立つ。といっても運河の水量はわずかである。江戸川は滔々たる流れ、美しい景観が広がっている。

青年館で接待を受けて昼食。残るは二つ、いずれも野田市の今上と上花輪。ここから往復八キロはあるという。雨やまず、やむなく中止、解散となった。結願とはいえ、あやふやな信心。未知のところが歩いてみたいというのが本音だから、秋の遍路に夢をつなぐことにした。



札所は畑中にあったり路傍だったり、そこで般若心経を読み上げた

## 利根運河と お大師遍路

明治二十三年に開通した利根運河は、柏・野田・流山の三市にまたがって、利根川と江戸川を結ぶ八・五キロの運河。最盛期には一日百隻の高瀬舟が運航したという。運河開削工事の犠牲者の慰霊と地元住民の交流を目的とし、大正二年に大師堂を建立、新四国八十八ヶ所運河大師霊場ができた。平成二年に、四散した堂宇の再建と環境浄化、観光に寄与することをねらいとした利根運河霊場再建実行委員会が発足、八年には、札所の後継者が母体の利根運河大師護持会（会長・秋元大吉郎）に組織変更された。春の二回の遍路を実施、初参加者も多い。事務局は流山新聞社。

①最終日は、浄観寺で般若心経を唱えているときから雨になった。それから運河の浮き橋を渡し、また戻り、35名は歩き続けた⑤5回の遍路で快晴のときは遠足気分になった